

「男女共同参画」とは、男性も女性も平等に尊重され、自分の意思によって、職場、学校、地域、家庭で、いきいきと活躍できることです。

誰もが性別に関係なく、一人ひとりを大切に、個性と能力を十分に発揮できることです。相手を思いやり、支え合い、喜びも責任も分かち合い、みんなで歩いていくことをめざします。

小2、年長、1歳のお子さんのママ

女性も活躍！

まずは一歩踏み出そう～女性のPTA会長取材して～

市内の公立小中学校では唯一の女性会長である、石田小学校のPTA会長取材しました。

PTA会長を引き受けた経緯

「普段、仕事に追われて、お世話になっている学校のために何もできていないことにモヤモヤしていました。今年度から役員選出方法が変わったこともあって、育児休業中に役を引き受けようと思いましたが、まさか会長をやることになるとは思いませんでした（笑）。」

会長としての活動

「あいさつをする場面は思ったほど多くはありませんでした。会議については、子連れでも大丈夫なものもあり、そういう場合は子ども同伴で出席しています。活動については、PTAとして大事な活動は残して、そうでないところはなくしていきたいと思っています。一度何かを始めると、やめることがとても大変になりますので、何かを始めることは大事な分岐点です。共働き世帯が多くなっていて、PTA活動を負担に感じる人もいらっしゃいます。PTA活動は子どもたちのためにやっているのですから、その活動の中心に子どもたちがいるか、もう一度よく考え、活動の精選や改善をできる限りしていくことが大切だと感じます。一つ一つみんなでよく話し合いながら活動していくことを大切にしています。」

応援メッセージ

「興味が少しでもあったら、一歩踏み込んでみるといいと思います。収穫は必ずあります。まずは一歩踏み出して、やってみることが大事だと思います。」

【取材した委員の感想】小さいお子さんを抱えながら、取材を受けていただきました。敬遠されがちなPTA活動ですが、とても前向きに取り組んでいらっしゃるよう感じました。



「家にある食材で防災ごはん」(防災料理教室)

令和元年8月29日(木)、「防災料理教室」が伊勢原南公民館で開催されました。伊勢原市食生活改善推進団体「かつらグループ」が毎年防災の日に合わせて開催し、缶詰やレトルト食品などの保存食を使い、災害時の体力・健康を維持するメニューづくりを目的としています。災害時を考慮した料理講習会を開催しているのは、伊勢原市の公民館の中でも南公民館が唯一のことです。

講習の冒頭に、指導者から災害時の衛生面のお話と、備蓄食品についてアドバイスがありました。「栄養バランスがとれていて、自分のし好に合うものを見つけておき、普段から食べておくことで、避難生活でのストレス緩和につながります」とのこと。乳幼児や高齢者などかむ・飲み込むことが困難な家族の備蓄食品も、日ごろから少し多めに購入し常備しておくことも必要とお話されていました。

男性参加者は、「自宅では料理はしない」とのお話でしたが、手際よく、グループで協力して料理を作りあげていました。数年続けて参加している女性は、「簡単に美味しいので、帰宅後にも作っている」「家の食事を薄味にして、家族の健康管理を考えるようになった」とお話しされていました。

この防災料理教室の料理は、日頃食事作りをしていない男性でも簡単にできそうですよ。チャレンジしてみませんか。



お鍋で炊くご飯、サバ缶と野菜の煮物、切り干し大根のサクラエビあえなど

いせはら男女共同参画フォーラム

考えてみませんか？

生きづらさを抱える女性たちのこと

— 知ることから始まる支援 —

虐待、デートDV、貧困などの生きづらさを抱える女性の実態は見えにくく、関心も持ちづらい実態があります。私たち個人や地域として何ができるのでしょうか？実態を知り、互いを助け合える社会づくりを考えるきっかけにしてみませんか？

日時 **2月29日(土) 13:30開演** (13:00開場)
場所 伊勢原市民文化会館小ホール(350人申込制)
申込み 2月3日(月)から氏名(ふりがな)、電話番号を明記し
電話、FAX、Eメールで下記担当へ
託児 生後7か月～未就学児の託児あり*2月13日(木)までに申込み
*手話通訳・要約筆記・車いす席あり
担当 人権・広聴相談課
TEL 94-4716 FAX 92-9009 Eメール jinken@isehara-city.jp



NPO法人BONDプロジェクト
代表 橋 ジュンさん

女性への暴力は身近な問題です！

配偶者や親しく交際している相手から次のような行為をされたことが“あった”の割合は、いずれも男性よりも女性の方が高くなっています。女性で「1・2度あった」と「何度もあった」と回答した割合の合計は次のとおりです。

○身体的暴力 … 15.4%	○経済的圧迫 … 14.6%
○心理的攻撃 … 28.1%	○性的強要 … 10.9%

上記の行為について、女性では約4割の人が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えています。

【「伊勢原市男女共同参画に関するアンケート調査 調査結果」(H29.3月)より抜粋】



パープルリボンは「女性に対する暴力根絶運動」のシンボルです。

編集後記

その昔、政(マツコト)含めた決め事で多くの場合、女性は蚊帳の外でした。多くの女性は家を守ることに専念し、時に政略結婚など、政策の中に取り込まれていました。現代では、「男女共同参画社会」と銘打って、様々な人々が共通テーマを同じ土俵で協議し考えていく社会を目指していますが、まだまだ浸透していないのが現実です。男だから、女だからと言わず、お互いの良いところ、意見を尊重しながら、物事を決めていくことを実践しなければならない時が来ていると思います。男女共同参画は、希望のある未来をつかみ取るためのファーストステップではないでしょうか。

編集 伊勢原市男女共同参画推進委員会編集部会
発行 伊勢原市人権・広聴相談課
人権・男女共同参画推進係
伊勢原市田中348
電話：0463-94-4716
Fax：0463-92-9009
E-mail:jinken@isehara-city.jp
ご意見・ご要望をお寄せください。



男女共同参画推進委員(2020年1月1日時点)

委員長 佐野静江 副委員長 影浦寿満子
企画部会
笠原浩、近藤哲朗、高橋崇、富井靖子、根岸幸子、渡辺賛奈
編集部会
飯塚礼子、片伯部竜也、金井美保、神保京美、濱田保、早川恵子
計画調整会議
小泉幸彦、後藤陽子、紫牟田かな子、白鳥勉、保坂正親

男女共同参画社会を考える情報誌『ききょうフォーラム通信』